2026年3月期1Q決算について想定されるご質問に対する回答

本資料は、本日開示した2026年3月期1Q決算について想定されるご質問に対する回答を皆様のご参考として開示するものです。

Q1. 2026年3月期1Qの連結業績が前年同期比で増収になった一方、減益となった理由

当期1Q(4~6月)の連結売上高は既存事業※の増収で+1,174百万円、昨年7月に子会社化、同年10月より連結開始した株式会社アミノの売上高で+1,628百万円、合計で前年同期比+2,802百万円の増収となりました。一方利益面ですが、既存事業では売上高増加により+779百万円の粗利益高増加となったものの、原材料費高騰による原価率の上昇で▲97百万円(仕入品単価上昇▲376百万円、メニュー施策・値上げ+279百万円)、採用・教育の強化による人件費の増加で▲500百万円、支払手数料の増加で▲64百万円、地代家賃の増加で▲47百万円などの減益影響があり、既存事業合計で営業利益は前年同期比▲54百万円の減益となりました。それに株式会社アミノの営業利益とその連結のれんを含めた利益影響+10百万円を合計し、営業利益は連結で前年同期比▲43百万円の減益となりました。

上記の通り前年同期比で増収減益となりましたが、期初計画比では売上高は概ね計画通り、営業利益は計画を上回って推移しており、通期計画は十分に達成できる見込みです。(当社グループは事業の特性上2Q~4Qと比較して1Qの売上高、各利益が低くなる傾向があります)

※既存事業に昨年10月に子会社化した株式会社シンガの事業を含んでおります

Q2. 和食さとの中国地方再進出1号店「倉敷東富井店」の状況と今後の展開

2025年6月20日に和食さと倉敷東富井店が岡山県倉敷市に新規開店いたしました。和食さとの岡山県への出店は約19年ぶりとなります。和食さとの岡山県への再進出は2025年5月に発表した新中期経営計画「SRS VISION2030」の重点戦略I「“和食さと”のナショナルブランド化」を達成する上での重要な施策の1つであり、この店舗の成否が新中期経営計画を達成する上で非常に重要と捉えております。

開店に向けては従前以上に販促を強化し、地元岡山県のテレビ番組にも事前に取り上げていただくなどの効果もあり、開店後約1か月が経過いたしました。売上高は当初想定額の120%を上回って推移しており、非常に好調なスタートとなりました。

今後の展開といたしましては2026年3月期中に岡山県にあと2店舗(倉敷市1店舗、岡山市1店舗)の開店を予定しており、倉敷東富井店と同様のスタートを切れるように準備を進めているところでございます。2027年3月期以降に向けては岡山県での更なる出店と併せて広島県、四国地方での出店に向けて物件開発を進めている状況です。

Q3. 2026年3月期の出店進捗状況について

当期1Q時点での出店進捗状況は下表の通りです。直営のみの出店計画34店舗に対し、契約済店舗を含めた実績は14店舗と進捗率は41.2%となります。業態により進捗に差はございますが、引き続き全業態で計画を達成できるよう取り組んでいる状況です。計画未達の場合も新中期経営計画達成に向けて当初の来期計画に出店数を上乘せすることも検討中です。

鶏笑、海外店舗につきましては、鶏笑はFC展開による出店、海外はJV先による出店の為、当社が出店数をコントロールしにくい部分がございますが、計画の成否に関わらず、当社の連結業績に与える影響は限定的です。

	25/3期末 店舗数	26/3期1Q			26/3期 出店計画②	26/3期 契約済 店舗数③	26/3期 出店進捗率 (①+③)÷②
		出店実績①	閉店実績	1Q期末 店舗数			
和食さと	198 (-)	1 (-)	-	199 (-)	5 (-)	3 (-)	80.0%
にぎり長次郎・CHOJIRO	72 (-)	-	-	72 (-)	4 (-)	1 (-)	25.0%
家族亭	59 (7)	-	-	59 (7)	1 (-)	- (-)	0.0%
得得・とくとく	57 (45)	-	-	57 (45)	4 (-)	1 (-)	25.0%
かつや	51 (17)	-	-	51 (17)	5 (2)	1 (1)	20.0%
天井・天ぶら本舗 さん天	34 (1)	-	-	34 (1)	1 (-)	- (-)	0.0%
アミノ寿司業態	32 (-)	-	-	32 (-)	2 (-)	2 (-)	100.0%
定食屋 宮本むなし	24 (-)	-	-	24 (-)	-	-	-
宅配寿司業態	11 (3)	-	-	11 (3)	-	-	-
からやま	11 (-)	-	-	11 (-)	2 (-)	1 (-)	50.0%
ひまわり	8 (-)	-	-	8 (-)	2 (-)	-	0.0%
ピフテキ牛ノ福・勝福惣店	7 (-)	-	-	7 (-)	3 (-)	-	0.0%
M&S FC事業	32 (1)	2 (-)	-	34 (1)	6 (-)	3 (-)	83.3%
その他	12 (-)	-	-	12 (-)	1 (-)	-	0.0%
鶏笑	148 (148)	4 (4)	6 (6)	146 (146)	31 (31)	1 (1)	16.1%
海外店舗	24 (23)	-	-	24 (23)	8 (8)	-	0.0%
グループ計	780 (245)	7 (4)	6 (6)	781 (243)	75 (41)	13 (2)	26.7%
グループ計(直営のみ)	535 (-)	3 (-)	-	538 (-)	34 (-)	11 (-)	41.2%

() 内はFC、合併事業店舗数

Q4. 原材料費の状況と今後の見通しについて

当期の原材料費は前期と比較し約15億円のコストアップと試算しており、その内米価格の上昇が約9億円となります。その対策として当社の各業態においては付加価値の高い高単価メニューの導入や、メニューミックスによる商品開発、一部の価格転嫁なども含めてできるだけ粗利益率の維持に努めており、Q1にも記載の通り粗利益率は前期比で悪化傾向ですが、期初計画通りに推移しております。

当期は特に米価格上昇の影響が非常に大きく、全てを価格転嫁することは客数減少リスクが高いと判断しており、引き続き国内、海外で幅広く仕入先の開拓を進めながら、各業態で適切な価格で付加価値の高い商品を提供できるよう企業努力を継続してまいります。

Q5. 為替の影響について

主に原材料などの仕入れに関して影響があります。当社は大半の仕入を、商社を通じた円建て取引により行っておりますが、為替変動の間接的な影響を受けると認識しております。一部の仕入は海外からドル建て取引により行っており、当社は輸出を行っておりませんので、円高は仕入価格に有利に、円安は不利に作用いたします。当社は為替変動リスクをヘッジするために為替予約取引を行っておりますが、海外からの輸入取引に対する為替変動への感応度は米ドルが1円変動した場合、連結営業利益の影響は年間約0.1億円と試算しております。

以上